

下大和田谷津田だより

2002年4月号

YPP報告 春の田んぼはじめ 3月17日

桜のつぼみを早起きさせるほどの暖かさの中、今年の田んぼはじめとして、畦の補修などの作業を行いました。ちょうど通りがかった近くの田んぼをやっていらっしゃる地元の農家の方にクロ塗りの手本を見せていただき、見よう見まねで挑戦。最後には実に要領よく塗れるようになり、水漏れをしっかりと止めることができました。また、手押しの草抜き機を使った除草も行いました。小さくても力のいる草抜き機で一枚の田を全部カバーするのは大変な作業ですが、子供たちも機械を押してみたり、楽しい作業でした。代かきとクロ塗りをした田んぼは見違えるほど立派になりました。

下の不耕起田ではガマが一面に発芽しており、それを抜く作業に悪戦苦闘しました。地下茎が深くしっかりとはっついて抜くのは大変な作業です。タコノアシも地下茎から発芽をはじめており、こちらも放置するとジャングルになりそうなので抜きました。田植えをしない隣の田んぼにたくさんのタコノアシがあるので抜いても大丈夫です。5人がかりで取り組んでも田んぼの半分抜くのが精一杯。草取りはやっぱり重労働ですね。

作業と並行して子供たちが中心となって、田んぼの生きもの地図を作りました。1カ月ですっかり大きくなったアカガエルのオタマジャクシ、増えてきたメダカ、まだ小さなヤゴ、ザリガニに赤ちゃんなど、このところの暖かさで生きもの数が急増しています。水温む田んぼをよく見るとすごい数のプランクトンが発生していて、多くの生き物の暮らしを支えていることを実感しました。かわいい草花もたくさん見られました。子供たちは見つけた生きものを絵で描いたり、草花をテープで貼り付けたりして、楽しい地図ができました。ウグイスの音が響き渡る谷津は春で一杯。だから農作業が気持ちいいんですね。

4月のYPPで残った作業と田ならしをして、5月11日にいよいよ稲刈りです。

(参加者：大人14人・高校生3人・小学生1人・幼稚園児2人)

第26回定例自然観察会報告 3月3日

気温が5℃と寒さが戻った曇り空の下での観察会でしたが、オオイヌノフグリやヒメオドリコソウ、キュウリグサなどが花をつけ、ウグイスもさえずりの練習に励んでいました。ニホンアカガエルのオタマジャクシが大幅に大きくなっていました。カワトンボのヤゴも見かけました。

観察された動植物は次のとおりです。

<花> オオイヌノフグリ、タネツケバナ、スズメノカタビラ、ナズナ、ヒメオドリコソウ、コハコベ、セイヨウタンポポ、ハハコグサ、ノミノフスマ、チチコグサモドキ、キツネノボタン、ヘビイチゴ、キュウリグサ、ノゲシ。
その他の植物関連：キツネササゲの果実、枯れたセイタカアワダチソウの根元にキノコ、緑色の褐藻、杉の花粉

<野鳥> アオジ、ホオジロ、ウグイス、ツグミ、ヒヨドリ、シジュウカラ、モズ、セグロセキレイ

<昆虫ほか> ヨシの蕊にガspの幼虫、イタチの足跡

<水中生物> メダカ、ヨコエビ、カワニナ、アメリカザリガニ、カワトンボのヤゴ、スジエビ、ニホンアカガエルの卵塊とオタマジャクシ、タモロコ

(参加者：大人8人・小学生2人)

定例観察会と谷津田プレラッドプロジェクト(YPP)の活動を中心として、下大和田のようすを皆さんにお伝えします。皆様のご投稿、ご意見をお待ちしています。 高山邦明